B型肝炎ワクチンの説明書
商品名：ヘプタバックス-Ⅱ（Heptavax-Ⅱ）

■B型肝炎について

B型肝炎ウイルスによる急性肝炎や慢性化して肝細胞癌の原因になります。
さらに、病気治療で使用した免疫抑制剤によってウイルスが再活性化され発症するde novo肝炎の原因にもなります。初感染で約2%が劇症肝炎になります。

■感染経路

・性行為や医療行為、美容行為(ピアスや入れ墨)で、血液や体液から感染します。
・ヒトーヒト感染は濃厚接触だけでなく、祖父→父→孫の経路不明例の報告もあります。

■流行地域

・発展途上国で感染リスクがあり、中国、東南アジア、アフリカではキャリアが多いです。

■診断と治療

・採血による抗体の上昇や腹部エコー、腹部CTによって総合的に診断します。
・急性期は特別な治療法はなく、安静と対症療法のみです。
・慢性化した場合は発癌予防の内服治療などがあります。

■予防方法

・不特定の人との性交渉は避ける。また、コンドームを使用する。
・海外では医療器具が汚染されていることもあり、信頼できる医療機関を受診する。
・ワクチンを接種する。

■ワクチン接種対象者

B型肝炎については、抗体のない方全てが接種対象者になります。

■ワクチンについて

・ヘプタバックスは国内承認ワクチンです。
・3回（1コース）接種後にHBs抗体価が陽転化していれば、効果はほぼ一生とされていますが、10年ごとの接種を勧める意見もあります。

	ヘプタバックス-Ⅱ
【製造会社】	MSD（Merck Sharp & Dohme）
【適応年齢】	0～9歳：0.25ml、 10歳以上：0.5ml
【接種回数】	3回
【スケジュール】	初回と4週間後と(20-)24週間後。
【接種方法】	皮下または筋肉注射。（9歳以下は皮下注射）
【持続期間】	ほぼ一生。

■副反応

注射部位の違和感、発赤、疼痛を生じることがあります。まれに発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛を認めます。ごくまれにアナフィラキシーショックを起こします。

■諸注意

過去に同ワクチンにアレルギーを起こされた方、発熱している方は接種できません。
妊娠・授乳中の方には推奨しません。

■健康被害が生じた場合

国内ワクチンは公的救済制度の適応です。
ワクチン接種後に発生した副反応などの症状には保険診療で対応します。